

「木々たちは涼しくなると！」

校庭自然観察教室

奈良市立佐保川小学校

鈴木 末一

秋晴れの10月24日(月)、奈良市立佐保川小学校校庭自然教室(学習支援)が開催され、当会から冨江、菊川、桜木、山本美の4名の会員が講師としてご活躍いただきました。

千載会長から当会の活動についての説明と4名の方々の紹介の後、3班に分かれてスタート。子どもたちは、昇降口前にある佐保川の森を起点として、運動場の外周に植栽されている木々⇒学校の南側を流れる佐保川の堤防にあるサクラや自生している「ウマノスズクサ」の順に観



察学習に取り組みました。本格的な秋の季節に合わせて実を付けている木、葉が紅葉しつつある木

など、実物で確かめながら、今まで気付かなかったり、疑問に思っていたことなど、色々な質問を子どもたちから講師に投げかけたり、ノートに記録したりしていました。

子どもたちの表情を見ていますと、今まで〈?〉に思っていたことが、少しずつ〈!〉になっていったように感じ取れました。

事前の打合せで教材の木々を選定。実や花などとともにパネルも準備し、それぞれの場所に配置するなど、教材の準備は万全でありました。

佐保川の森では、クスノキの説明を聞き、クヌギのドングリを観察するうち、形や大きさの違う別のドングリを見つけて、「これは何の木のものですか」とすばやく質問をする子もあり、時が経つにつれて、観察学習に引き込まれていきました。

先生たちによると、「ふだんの教室での様子と

は全く違う。こんなに活発に色々なものに興味や関心を寄せたり、疑問に思ったことは素早く質問するなど、子どもたちの隠された新しい一面を垣間見ることができました」とのこと。



さらに「講師の皆さんと子どもたちの間で交わされる会話を聞いてみると、「行って」「返って」「また行く」と

いうことが、意図的ではなく自然発生的に行われていることに、ふだんの学習指導のあり方について、大いに参考にしなければと強く感じましたし、貴重な経験を積ませていただきました」とのコメントをお寄せいただきました。

1コマ45分間の巡回指導で取り上げる教材となる木々が沢山あり、いずれの班も時間オーバーせざるを得なかった模様でした。諦めかけていた「ジャコウアゲハ」が、偶然にも飛来。子どもたちは、神秘的な珍蝶との出会いに歓声をあげていました。

3学期の来年1月に予定されている2回目の観察教室では、厳寒に耐えている木々たちの様子



子をどのよう
に受け止めて
くれるでしょ
うか、楽しみに
しています。

講師の方々
には、事前準備
から本番まで

ご苦労さまでした。

なお、当会が同校の学習支援活動に携わるようになったのは、当会が地域の各種活動団体で、私が学校運営協議会の一員でもあり、かねてより校長先生から社会人講師派遣について、依頼があったのに応え実現しました。